

『山持遺跡6区 出土板絵の詳細な内容』

板絵	内容	詳細	寸法(cm)		
			長さ	幅	厚さ
2号像	頭部	頭部は他の部分と比較して非常に精美に描かれています。髪は頭頂部で髷を結び、左右に振り分けて下ろしています。顔は描かれていませんが、墨以外の他の顔料で描かれていたものが消えている可能性もあります。	65.5 (完形に近い か?)	8.5	1.4
	上半身	唐風の服である盤領(アケケ)、筒袖の袍(ホウ)を着ています。両手は袖の中に隠れていると考えられますが、右手に蓮花を持っている可能性もあります。			
	下半身	長い縦縞のある裳(モ)をつけて、帯を締めています。			
	足部	くつを履いている可能性もありますが明確ではありません。			
	描かれているもの	唐風の服装をした俗人の女性と思われま。ただし、蓮花を持っていると仮定した場合には、仏教的な絵の可能性がでてきて、吉祥天等の可能性もあります。			
	描いた人	専門の画師が描いた絵ではないと思われまますが、筆を使い慣れた人が描いていると考えられます。			
	時期	髷の形態から7世紀後半～8世紀前半と考える見方もありますが、出土している土器の年代を参考にすると概ね8世紀～9世紀初頭に描かれたものと考えられます。			
用途	何らかの祭祀に用いられた可能性や人物像の習い書きしたものの可能性が考えられます。ただし調度や器物の部材である可能性も否定できません。				
4号像	頭部	左右に振り分けて下ろした髪が確認され、その外側に冠の飾りの可能性がある紐状の線が見られます。背後には円形の頭光(スゴウ)が描かれています。顔は描かれていません。	46.0	8.0	0.5
	上半身	盤領(アケケ)の袍(ホウ)を着ていると思われま。両手は袖の中に隠れていると考えられます。2号像と袖や、服の合わせ目の表現が異なります。			
	下半身	長い縦縞のある裳(モ)を付けていると思われま。			
	足部	残っている状況が良くないので不明です。			
	描かれているもの	頭部に円形の頭光(スゴウ)があることから仏を描いていると考えられます。上半身に服を身に付けていることから観音像等ではなく、吉祥天女(キチジョウテンニョ)の可能性が考えられます。			
3号像	頭部	髪は髷がなく髪を垂らしています。顔は残りが悪いせいもありますが、分かりません。	47.5	8.0	1.3
	上半身	袍(ホウ)の盤領(アケケ)の部分の表現を確認することが出来ます。			
	描かれているもの	女性又は若年の男性の可能性が考えられます。			
1号像	描かれているもの	胸部中央を描いた場所が残存してま。2号像と同一の服装と考えられます。	(23.3)	8.3	0.6

出土した4枚の板絵の意義など	<p>① 時期: 8世紀～9世紀初頭(奈良時代～平安時代初頭)</p> <p>② 特色: 出土品は、いずれも1枚の板材に1人の人物像を描いています。描かれているのは、世俗の人物と仏の全身像であり、着ている服は、いずれも上半身が盤領(アケケ)の袍(ホウ)で、下半身は確認できるものは、裳を着けています。世俗の人物は服や髪形から唐風の人物と思われる像が描かれています。出土した4つは互いに何らかの関係を持ちながら使用された可能性が高いと思われま。</p> <p>③ 発見の意義: ア) 世俗の女性を墨書きで描いたもので、落書きや呪符木簡(ジュフモクカン)の略画等を除くと8世紀～9世紀初頭まで遡る古いものは、今回が初めての発見です。また世俗女性像の全身が分かる出土例も高松塚古墳壁画を除いて国内では類例がなく貴重な発見となりました。 イ) 絵画に描かれた内容から、唐風の服装をした人物が地方にも存在していた可能性が想定され、当時の風俗を考える上で、貴重な発見となりました。 ウ) 4号像は吉祥天が描かれており、これによって地方の民衆の中に古代仏教が広まっていった様子が、具体的な絵画として分かる極めて貴重な発見です。</p> <p>④ 遺跡の評価等: 山持遺跡周辺地域は、東方2km先に神像・絵馬・山水画・大量の木簡・墨書土器が出土した青木遺跡が存在しており注目される地域でした。今回の出土板絵や墨書土器の発見によって、調査地周辺に仏教関係施設が存在している可能性が高まりました。この地域の古代における重要性が再確認されることとなりました。</p>
----------------	---

- ①袍(ホウ) : 唐代に広く官人に採用された最上衣、7世紀末頃には日本に伝わる。まるえりで筒袖、裾が長いのが一般的
- ②盤領(アケケ) : 衣服の衿(エリ)の仕立ての一種で、詰め衿(エリ)式にのどの下までぴったりと隠し、肩のところでヒモ結びしたまるい型のもの。
- ③裳(モ) : 腰に巻き下半身を覆う衣服
- ④吉祥天(キチジョウテン) : 福德を司る女神、奈良時代から信仰され、767年正月諸国の国分寺で始修された吉祥悔過(キチジョウケカ)の本尊として用いられた。